

目標

- ◎他国の人々に自分たちの生活様式や文化を伝える力を育むために、日本や郷土津市について学習したことを積極的に英語で発信しようとする態度を育成する。
- ◎中学校卒業時に英検3級相当の英語力を身に付けさせる。（目標：生徒全体の60%）

特化研究プロジェクト事業

モデル校20校 4,900千円【うち英語特化モデル校6校2,000千円(概算)】

モデル校が取り組む先進的で専門的な研究を支援し、その成果や指導方法を中学校区及び津市全体に発信することで、子どもたちの学力向上につながる授業づくりを図る。

小学校の研究 モデル校3校

●「津市版英語教育カリキュラム」の活用

- ・新学習指導要領の内容を踏まえた小学校から中学校への7年間を通したカリキュラムを活用した授業づくり

●デジタル教材の効果的な活用

- ・新教科書に準拠した「デジタルブック」や津市のALTが作成した「リスニングチャレンジ」を活用した評価方法の研究及びわかる授業づくり

●「津市版チャンツ」の作成・活用

- ・津市のALTが中心となり中学校区の特徴を生かしたチャンツを作成し、それらを活用したパフォーマンス活動の充実

主な連携

【新教科書著作関係者】

長崎大学

中村典生教授

皇學館大学

川村一代准教授

【企業】

ベネッセコーポレーション等

講師報償金
教材費
検定料

中学校の研究 モデル校3校

●「津市版英語教育カリキュラム」の活用

- ・新学習指導要領の内容を踏まえた小学校から中学校への7年間を通したカリキュラムを活用した授業づくり

●スコア型英語4技能検定GTECの活用

- ・技能別スコアを基にした生徒の英語力の実態把握
- ・新学習指導要領に沿ったスピーキングやライティングのテストの在り方の検討

●「津市版英語力測定システム」の構築

- ・津市版スピーキングDVD及び英検過去問（3級一次筆記）を活用し、生徒の英語力を測定するシステムの研究

授業力の向上

児童生徒のコミュニケーション能力の向上

- 「津市版英語教育カリキュラム」の浸透
- デジタル教材の効果的な活用
- 津市版英語力測定システムの活用